

平成24年 園内の松くい虫被害について

木原靖正・藏田光紗

はじめに

松くい虫被害は、寒冷地である北海道などを除き、全国的に広がり、各地で甚大な被害がでている。

当園でも平成24年8月下旬～11月上旬に102本のマツが松くい虫による松枯れで枯死し、伐採した。

発生状況

内訳は、自生のアカマツ95本（径20～51cm）のほかに、植栽したクロマツ4本（径23～43cm）とタギョウショウ3本（径20～23cm）であった。平成22年には92本、平成23年には86本のアカマツに被害があった。なお、マツノザイセンチュウの検出は、広島県立総合技術研究所林業技術センターへ依頼した。



写真1. 植物公園入口のアカマツ被害（伐採前）

このように平成24年の発生はやや多く、この

状況は県内全般で見られ、実際に植物公園周辺の山々を観察したり、県北部の高速道を走っていると、例年になく枯れたマツが目立った。

防 除

発生初期、クロマツの樹幹に注入剤を、クロマツ、タギョウショウの根に殺線虫剤、活力剤を試みたが、効果はなかった。

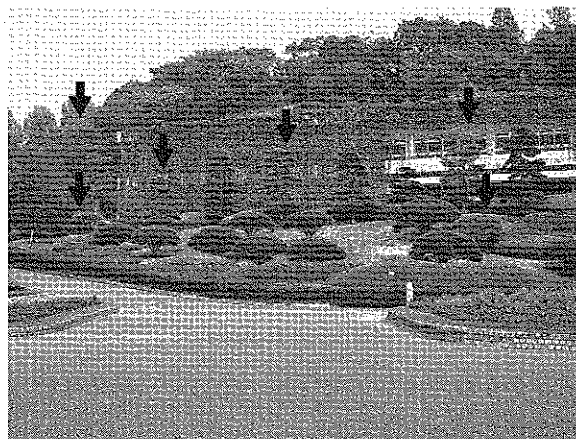


写真2. 資料館前のクロマツ、
タギョウショウ被害（伐採前）

課題と対応

マツノマダラカミキリの駆除は、以前から一部で行われていたが、環境汚染や自然破壊の問題があり、効果の面でも疑問視されることもある。当然、周囲に住宅地がある当園では不可能である。

また、樹幹注入剤は、費用・労力面で、多くの樹に毎年処理することはできない。

今後も被害が続く、年々マツが減少していくことは明らかであり、速やかな伐採・撤去により著しい被害の拡散を防ぐしかない。ただ、植栽したクロマツやタギョウショウについては場所や固体を選定し、維持・管理をしていく必要がある。